

## 北海道医療大学大学院薬学研究科の概要

## ○ 北海道医療大学大学院の教育理念・教育目標

### [ 北海道医療大学大学院の教育理念 ]

建学の理念を基本として、大学院の教育理念を以下のように定める。

生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合を図る教育を推進し、人間性豊かな高度専門職業人の養成ならびに独創的な研究活動を通して、社会の発展と人類の幸福に寄与することを北海道医療大学大学院の教育理念とする。

### [ 北海道医療大学大学院の教育目的 ]

北海道医療大学の教育理念に沿って、高度な専門知識・技術の修得に加え、保健・医療・福祉分野の横断的な知識および豊かな人間性を有した高度専門職業人の養成と最先端の研究活動を通じて、社会の発展、人類の幸福に寄与できる教育・研究者の養成を本大学院の教育目的とする。

### [ 北海道医療大学大学院の教育目標 ]

北海道医療大学の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。

1. 豊かな学識と人格の養成
2. 高度な専門知識および学術の修得
3. 独創的な研究および研究能力の開発
4. 社会の要請に的確に対応できる教育・研究の推進

## ○ 大学院薬学研究科の教育理念・教育目標

### [ 大学院薬学研究科の教育理念 ]

#### 《薬学専攻博士課程》

本大学院の教育理念を基本として、生命の尊重と個人の尊厳の保持を旨とし、保健と医療と福祉の連携・統合を図る教育・研究を推進し、社会の要請に対応した研究や独創的な研究活動を通して、社会の発展と人類の幸福に寄与することを薬学研究科薬学専攻（博士課程）の教育理念とする。

### [ 大学院薬学研究科の教育目的 ]

#### 《薬学専攻博士課程》

薬学研究科薬学専攻（博士課程）の教育理念に沿って、保健と医療と福祉の連携・統合を図る教育・研究を推進し、研究活動を通して、人間性豊かで確かな倫理観を有する薬学研究者や教育指導者の養成を本専攻の教育目的とする。

### [ 大学院薬学研究科の教育目標 ]

#### 《薬学専攻博士課程》

薬学研究科薬学専攻（博士課程）の教育理念・教育目的に基づいて、以下の教育目標を定める。

1. 豊かな学識と人格の養成
2. 独創的な研究および研究能力の養成
3. 社会の要請に的確に対応できる教育・研究能力の修得

## ○ 大学院薬学研究科の三方針

### [ 大学院薬学研究科 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー) ]

#### 《薬学専攻博士課程》

以下の要件を満たし、深い学識と高い研究能力を修得したと認められる、あるいは高度な薬学専門性を必要とする職業において指導的役割を担うための高い学識と能力を修得したと認められる者に対して、「博士（薬学）」の学位を授与する。

#### 1. 高度な専門知識と研究能力

薬学または創薬科学に関する専門分野で、独創的かつ高度な研究を遂行できる能力を備え、その研究成果を国際的な学術誌（査読付き英文誌等）に論文として発表することができる。

#### 2. 自立した研究者としての資質

自ら研究課題を設定し、先行研究を踏まえて独自の研究計画を立案・遂行・発展させる能力を有し、研究倫理・実験責任を十分に理解し、誠実な研究活動を遂行する姿勢がある。

#### 3. 学際的視野と社会貢献への意識

他分野との連携や学際的な視点から研究を発展させる能力を有し、医療・福祉・創薬企業・行政など、社会の多様な領域に対する貢献意識を持って行動できる。

#### 4. 高度なコミュニケーション能力

研究成果を国内外の研究者に向けて発信し、的確に説明・議論できる能力を有する。また、教育・指導者として後進の育成に寄与できる高度なコミュニケーション能力を備えている。

#### 5. 学位授与要件の達成

所定の単位を修得し、博士論文を提出するとともに、学位論文の発表・審査において、学位取得に必要な学術的成果が示されていること。

### [ 大学院薬学研究科 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー) ]

#### 《薬学専攻博士課程》

薬学研究科薬学専攻(博士課程)の学位授与の方針に基づき、以下の方針のもとで教育課程を編成・実施する。

1. 志望研究分野に属して医療薬学に関連する先端的研究に取り組みながら、研究計画能力と研究実践能力を身につけさせる。

2. 学会発表ならびに論文発表を通して研究競争力と問題処理能力を身につけさせる。

3. 幅広い視野から基盤薬学ならびに応用薬学を学ぶことができるように配された授業科目の履修を通して、所属研究分野の知識のみに偏ることなく分野横断的に医療薬学に拘わる高度専門知識を修得させる。これにより専門職能を発展する基礎となる豊かな学識を身につけさせる。

4. 特論・演習科目の評価はプレゼンテーション・討論の参加状況やレポート等を用いて実施する。博士論文作成に当たり、指導担当教員による形成的評価を継続的に行い、3年次の「中間報告会」、最終年次における研究発表会、口頭試問、学力検査および博士論文審査基準に基づいて総合的に評価を行う。

### [ 大学院薬学研究科 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー) ]

#### 《薬学専攻博士課程》

薬学研究科薬学専攻(博士課程)では、日進月歩の近代医療の中で、人々や他の医療従事者の多様なニーズに応えるために薬剤師として更なる高度専門知識を修得することを目指す学生、さらに医療薬学に関連する学問領域での最先端の研究に従事して自己研鑽を積み、地域医療の中核を担おうとする意欲を持つ学生を求めます。

なお、入学者選抜区分ごとの入学希望者に求める能力、水準等の判定方法は以下のとおりです。適性を総合的に評価して入学者を選抜します。

「一般選抜」は、英語及び薬学領域に関する専門科目の筆記試験により修学に必要な学力を評価し、さらに履歴書、出願理由書などの出願書類と面接により修学意欲及び研究計画の妥当性などについて評価します。

「社会人選抜」は、英語の筆記試験により修学に必要な学力を評価し、小論文により論理的思考力、表現力を評価します。さらに履歴書、出願理由書などの出願書類と面接により修学意欲及び研究計画の妥当性などについて評価します。

## ○ 大学院薬学研究科の概要

本研究科では「保健、医療、福祉」を総合的に理解した上で、薬と人間との相互関係を把握でき、さらには、患者や他の医療職より信頼される「薬のプロフェッショナル」の養成を目的としている。

6年制薬学部を基礎とする新しい薬学専攻博士課程では、従来の3学系8分野を2学系に統合し、薬学を基盤として医療薬学の最先端の研究を通して、先端医療の推進に必要な高度な専門知識と研究能力、広い視野に立って総合的観点から研究・開発に取り組み、医療現場において指導的役割を担う人材養成を図るための教育課程を編成した。

本学の大学院教育では、こうした時代に対応すべく、2008年4月より、研究者又は教育者を養成する「研究コース」と、研究マインドを持った専門医を養成する「認定医・専門医養成コース」を創設し、学部教育に続き高度な教育と研究を推進し、保健・医療・福祉の連携・統合を担う実践的な人材の養成を含めた大学院を目指し、新しいカリキュラムにより教育を行っている。

## ○ 修業年限・学生定員

課程	専攻	修業年限	定員	
			収容定員	入学定員
薬学研究科 博士課程	薬学専攻	4年	12名	3名

## ○ 研究分野・学系

博士課程・薬学専攻
<p>【 2学系 】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基盤薬学系</li> <li>・ 臨床薬学系</li> </ul>

## ○ 担当教員

## ■ 薬学専攻 博士課程 担当教員

専攻	学系	教授	准教授	講師
薬学専攻	基盤薬学系	小林 健一		平山裕一郎
			山田 康司	
		高上馬希重		金 尚永
		村井 毅		佐々木隆浩
		佐藤 浩輔		
			北浦 廣剛	
		浜上 尚也	小林 大祐	
		小島 弘幸	寺崎 将	
		中川 宏治		土田 史郎
	室本 竜太	大澤 宣明		
	臨床薬学系	柳川 芳毅	水野 夏実	
		泉 剛	鹿内 浩樹	
		町田 拓自		
		小田 雅子		
		柴山 良彦	中川 勉	久保 儀忠
		小林 道也	伊藤 邦彦	
		平野 剛		中山 章 櫻田 涉 早坂 敬明
			岩尾 一生 木村 治	